

視力検査について

子どもの視力は、生まれてから3歳頃をピークに発達を続け、6歳頃に大人並みの視力になります。しかし、強い遠視や乱視、斜視などがあると視力の発達が止まってしまい、弱視になることがあります。

弱視になると、大人になってからでは治療できず、眼鏡をかけても視力が出ません。視力の発達を邪魔する異常をなるべく早く見つけて治療することがとても大切であり、3歳児健康診査での視力検査はお子さまの目の異常を発見する大切な機会となります。

なお、3歳ぐらいの子どもは見え方の悪さや目の異常を言葉で表現することはできません。そのため、**お家で視力検査を確実に行っていただき、3歳児健康診査の日はその結果をお持ちください**ますようお願いいたします。

検査方法については、別紙の「視力検査の方法」をご確認ください。

検査用の視標

----- き り と り せ ん -----

